

授業科目	日本語教育方法論Ⅱ				単位	2		
履 修	選択	関連資格	日本語教員		ナンバリング			
開講年次	1	開講時期	後期	該当DP	DP1-1 DP3-1			
担当教員	清水 順子							
授業概要	この授業では、日本語教師が授業を行う際に必要となる、コースデザイン、シラバスデザイン、カリキュラムデザインを学ぶ。教授法と、具体的な教室活動の例を示し、日本語を教えるイメージを描きやすくする。さらに、ピア・ラーニングの考えに基づき、いくつかの協働学習法を体験しながら学ぶ。							
学生が達成すべき行動目標	1.カリキュラム・デザインについて理解できる。 2.日本語の教科書がどのようなシラバスに基づいて作成されているか説明できる。 3.シラバスと教室活動、教授法との関わりについて説明できる。 4.授業や実習には何が必要か理解し、備えることができる。							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	50	0	0	50	100	
知識・理解 (DP1-1)			50				50	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)						50	50	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
学んだことを、自分のことばで他の人に分かりやすく説明できる。				1.カリキュラム・デザインについて理解できる。 2.日本語の教科書がどのようなシラバスに基づいて作成されているか説明できる。 3.シラバスと教室活動、教授法との関わりについて説明できる。 4.授業や実習には何が必要か理解し、備えることができる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)

1	オリエンテーション 授業の概要を説明し、履修方法や授業の目的、達成 目安、評価の内容と方法を理解する。	講義	復習: 該当部分の復習	60
2	カリキュラムデザイン 1 プレタスク 教科書分析	講義	予習: 該当部分の予習	60
3	カリキュラム・デザイン 2 コース・デザイン ニーズ分析 レディネス分析	講義	予習: 該当部分の予習	60
4	カリキュラムデザイン 3 シラバス・デザイン	講義	予習: 該当部分の予習	60
5	カリキュラムデザイン 4 教室活動と外国語教授法 ポストタスク	講義	予習: 該当部分の予習	60
6	授業デザイン 1 準備と教案 授業の流れ	講義	予習: 該当部分の予習	60
7	授業デザイン 2 活動の形態と種類 教材と教具	講義	予習: 該当部分の予習	60
8	授業デザイン 3 学習者の認知面・情意面への配慮 模擬授業①	講義	予習: 該当部分の予習	60
9	授業デザイン 4 模擬授業②	講義	予習: 該当部分の予習	60
10	ピア・ラーニング 1 対話的問題提起学習を体験する	講義	予習: 該当部分の予習	60
11	ピア・ラーニング 2 LTD 学習法を体験する	講義	予習: 該当部分の予習	60
12	ピア・ラーニング 3 ジグソー・リーディングを体験する	講義	予習: 該当部分の予習	60
13	学習者オートノミー 自己調整学習 自律学習	講義	予習: 該当部分の予習	60
14	教師オートノミー 自己研修型教師 リフレクションについて話し合う	講義	予習: 該当部分の予習	60
15	総括とレポート課題の確認	講義	自己評価 ピア評価 レポート	60
16				
17				
18				
19				
20				
21				

22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	特になし。			
テキスト	『新 日本語教育を学ぶーなぜ、なにを、どう教えるかー』遠藤織枝(三修社)			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『日本語教育演習シリーズ 授業の組み立て』丸山啓介著 (にほんごの凡人社) 『国際交流基金 日本語教授法シリーズ1 日本語教師の役割・コースデザイン』 『国際交流基金 日本語教授法シリーズ9 初級を教える』 『国際交流基金 日本語教授法シリーズ10 中・上級を教える』 『国際交流基金 日本語教授法シリーズ12 学習を評価する』 『日本語教師のためのテスト作成マニュアル』伊東祐郎著 (アルク)			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	1. 出席と積極的な参加を重視します。 2. 欠席1回につき、「出席を含む授業態度」が3パーセントずつ減点されます。 欠席5回で自動的に不可となり、遅刻・早退は2回で欠席1回とみなされますので、正当な理由があり欠席・遅刻・早退する／した場合は、必ず届け出ておくこと。 3. これまでの学習者としての体験を振り返りながら、授業に参加してください。			
達成度評価に関するコメント	「達成度評価」の「その他」は、授業への積極的参加とします。			

